

シトラス ネット

Citrus Net
ひがしすみよし
Higashisumiyoshi

東住吉
地域医療連携
ネットワーク
コミュニケーション誌

Vol.11
OCTOBER 2006

Topics 毎月、全職員を対象にした 医療安全管理報告会を開き 情報を共有しています。

医療安全管理室から 「医療安全管理部」へ

事故を未然に防ぎ、現場の安全管理をより強化していくために、今年4月1日、医療安全管理室を「医療安全管理部」へ組織変更し、専従の統括リスクマネージャーとして渡邊幸子（前・薬剤科科長）が就任しました。医療安全管理部では、院内で起きた問題事例のデータ分析などを行うとともに、各部署・各職種の代表者からなる「医療安全管理委員会」を定期的に開催。事故につながりそうな事例の検証と対策を協議しています。さらに、それらの内容をまとめ、月に1度、全職員を対象とした「医療安全管理報告会」を開いています。

情報を共有し、 横の連携を深めていく

医療安全管理報告会の大きな目的は、情報を共有し、職種間の連携を深めることにあります。たとえば、問題事例を分析すると、職種間の確認漏れや組織の仕組みそのものに原因があるケースも見られます。こうした問題を解決するには、組織を横断した連携

が欠かせません。また、他院や他部署で発生した問題を「明日は我が身」ととらえ、職員一人ひとりが高い安全意識をもつよう啓蒙しています。

すべての医療行為は 患者さんの確認から

医療安全管理部では今年の重点目標として、社会問題にもなっている「患者誤認の防止」を掲げています。「すべての医療行為は患者さんの確認から」というスローガンのもと、点滴、検査、薬剤処方、手術などの各段階で、患者さんの確認を徹底するよう指導。ほんの小さなミスから不幸な事故に発展しないよう、さまざまな角度から対策を講じ、安全管理体制の充実に努めています。



医療安全管理報告会では毎回平均120名ほどの出席があり、質疑応答も活発に行われています。

フィルムに写ったすべての臓器をチェックし 正確な画像診断に取り組んでいます。

放射線科では、臨床各科および診療所の先生方の依頼に応え、一般撮影、CT、MRI、血管撮影など各種画像診断を迅速に行っています。とくに救急患者さんの緊急検査については、24時間体制で速やかに対応しています。その検査・診断体制についてご報告します。

ハイレベルな装置を 各種取りそろえ 多様なニーズに即応

も り も と **N O W**

今や、どの診療現場でも、理学的所見のみならず、画像診断が欠かせない要素になっています。こうした時代の流れのなかで、当院においても新病院に移転した2004年10月からほぼ1年間で、院外からの依頼件数が2倍近くに増えました。トータルの検査件数は、院内各科からの依頼を含めると約1.5倍に増加している状況です。院外からの依頼では、耳鼻科、泌尿器科など、当院の診療科目にない専門分野の画像診断も数多くお受けしています。

このような院内外の幅広いニーズに応えるために、当科ではハード面を充実させ、

■主な検査実績(2005年4月～2006年3月)

C T 検 査	14,648件
M R I 検 査	4,718件

■検査装置一覧

一般撮影装置	3台
乳房撮影装置	1台
骨塩定量測定装置	1台
CT撮影装置	2台
心臓血管造影装置	1台
頭部腹部血管造影装置	1台
透視撮影装置	2台
CR装置	一式
外科用イメージ装置	3台
ポータブル装置	3台
MRI撮影装置	2台

同規模の国公立病院などと比べても遜色のないハイレベルの検査体制を整えています。今秋には、マルチスライスCTの最高機種である64列マルチスライスCT装置(SIEMENS社製 SOMATOM Sensation 64-Slice Configuration)も導入することが決定しています。これにより、より短時間で精細な3D(立体)画像・断層画像を得られる環境が整います。

モニター診断により 撮影画像すべてを 細かくチェック

も り も と **N O W**

放射線科では、昨年10月より各医師に2台ずつ高精細モニターを配し、モニターでの診断を行っています。従来のフィルムでの診断に比べ、撮影画像すべてを、いろいろな条件でモニターでチェックできるため、より多くの情報が得られ、診断の質的向上につながっています。また院内では、放射線科の医師が所見をつけている間に、フィルムその

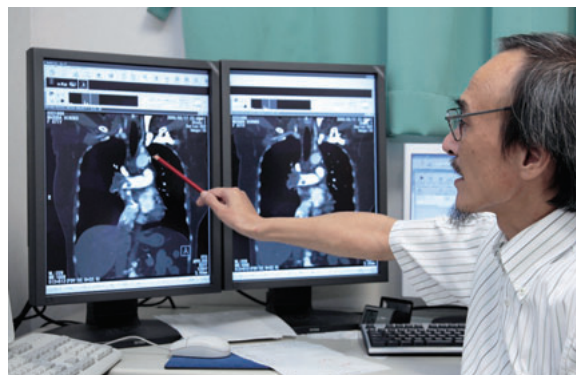


ものは速やかに主治医へ渡されます。そのため、診療の効率化に役立ち、救急患者さんの緊急検査においても、スムーズに対応できるようになっています。

目的臓器の周辺に 思わぬ病変が 見つかることも…

も り も と **N O W**

放射線科への依頼は、ほとんどの場合「目的臓器を診てほしい」というものです。しかし当科では、「フィルムに写った臓器をすべてチェックする」ことが放射線科医の役目だと考え、専門医全員が画像全体をくまなく評価するよう心がけています。そうすることで、目的臓器の周辺に思わぬ病変が見つかることもしばしばあります。これらの診断結果は、所見用紙に詳しく記入し、フィルムとともに診療所の先生方へお返ししています。今後とも放射線科では、得られる画像データを細かく正確に診断する姿勢で、病気の早期発見と治療をサポートしていきます。



診療所の先生方がいつでも気軽に ご相談、ご質問に来られるよう、 オープンな雰囲気をは心がけています。

放射線科は専門医3名、検査技師15名の体制。風通しのいい
雰囲気のなか、さまざまな画像診断と治療の依頼に速やかに
対応しています。その取り組みについて、放射線科部長・波多 信
からお話します。



放射線科部長 ハタ マコト 波多 信からのメッセージ



経験豊富な専門医が 画像診断を行う

当科の特徴として、3名の専門医が
全員、10年以上の経験を積んだベ
テランであることがあげられます。その
豊富な経験をベースに、つねに最新
の画像診断技術を取り入れながら、
正確かつ迅速な診断に努めています。
また、医師と検査技師のチーム
ワークもよく、全スタッフがしっかり連
携し、スムーズな検査・診断・治療に
取り組んでいます。とくに検査におい
ては、安全第一を心がけ、すべての
患者さんに安心して検査を受けてい
ただけるよう努力しています。

画像診断技術を 応用した治療も担当

放射線科では、左頁でご紹介した各
種画像検査・診断に加え、各診療科
と協力して画像診断技術を応用した
IVR（インターベンショナルラジオロ
ジー）も担当しています。具体的には、
おもに肝腫瘍・肝がんに対する腫瘍
塞栓術、消化管出血に対する止血
塞栓術などを行っています。
そのほか、近隣の病院から依頼を
受けてIVRを行うこともあります。
最近の事例では、TPN（中心静脈栄
養法）のカテーテルを抜去する際、
その一部が血管内に残ってしまった
患者さんが搬送され、すぐさまIVRに
より取り除き、お返ししました。この
ような病病連携も含め、今後も高度な
画像診断技術を活かして地域医療
に役立っていきたいと考えています。

オープンな雰囲気 で先生方との連携を

画像診断が正しかったかどうか、
その後、患者さんの治療がどうな
されたか——。こうした治療の経緯を知
ることは、放射線科医が学び、成長
する上で欠かせない情報となります。
そのような経緯を教えてもらうため
にも、当科では院内の医師や診療所
の先生方がいつでも訪ねてこられ、
ざっくばらんに話し合えるような、オ
ープンな雰囲気を大切にしています。
画像診断についてのご相談、ご質問
などがあれば、共同指導に来られた
際にも気軽に立ち寄っていただき
たいと思います。フィルムと所見のや
りとりだけでなく、そういったフェイス
・トゥ・フェイスの関係を育てることで、
先生方との信頼関係をよりいっそう
深めていきたいと願っています。

●プロフィール／大阪医科大学出身。専門分野は画像診断学一般、胸部画像診断。日本医学放射線学会所属。日本医学放射線学会専門医。

どんどん
ご活用ください！

東住吉森本病院の 検査機能

心・血管エコー検査

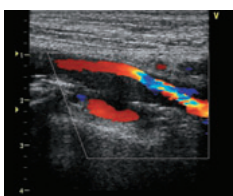


循環器科
平田 久美子

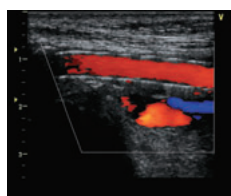
●プロフィール／
大阪医科大学出身。
日本内科学会認定
医。日本内科学会、
日本循環器学会、日
本心臓病学会、日本
心エコー学会、日
本超音波学会所属。

最新鋭の装置を導入し、検査体制がさらに充実。
検査結果は動画で保存し、経過観察に役立っています。

これまで使用してきた2台のエコー検査装置に加え、最新鋭のエコー検査装置（GE社製Vivid7）を導入しました。この装置では患者さんの体格に関係なく、深い位置にある血管まで鮮明な画像が得られ、小さな病変も見逃すことなく評価できます。そのため、心臓の病気はもちろん、最近増えてきた閉塞性動脈硬化症や深部静脈血栓症などの診断を早期に行うことができます。このほか、狭心症が疑われる患者さんには、さらに踏み込んだ特殊な検査として「ドブタミン負荷エコー検査」も積極的に行っています。なお、これらの検査結果はすべて動画で保存し、治療経過の確認や臨床研究に役立っています。循環器科ではこのように充実した検査体制を整え、動脈硬化リスクの高い人へのスクリーニングも幅広く行っています。1日で心電図、心・血管エコー、ABI・PWV、トレッドミル検査などをひと通り行うことができますので、気になる症状の患者さんがおられましたら、どうぞ紹介ください。



血管画像（治療前）



血管画像（治療後）

1 検査申込

事前に地域医療連絡室に電話予約いただき、紹介状を患者さんにお預けください。

2 検査

■心・血管エコー検査

月曜～金曜 午前
月・金曜 午後

■特殊エコー検査

・冠動脈エコー
・ドブタミン負荷エコー
・運動負荷エコー
・経食道エコー
火・水・木曜 午後

3 検査結果

循環器の専門医と臨床検査技師による所見とエコー写真を、検査当日、患者さんにお持ち帰りいただきます（所見に時間がかかる場合は、後日診療所へ郵送いたします）。

東住吉森本病院の設備 屋上展望レストラン waiwai

最上階にあって、長居公園を一望できる気持ちのいいレストラン「waiwai」。ここは、病院に来られた一般の方々にご利用いただけるお店です。自慢のメニューは、うどん職人が手がける麺類。最上級のかつおをブレンドし、しょうゆ・みりんにもこだわった手作りの“だし”は、麺類専門店にも負けない絶品の味わいです。

お客さまは、お見舞いに来られた方や患者さんなどいろいろ。退院された方が後日、コーヒーを飲み立ち寄っ



店長
稲田 松美

てくださることもよくあります。院内のお店だけに、接客では、やさしい気持ちが欠かせません。お客さまを温かくお迎えし、病院のなかで、ほっとくつろげるオアシスのような空間に育てていきたいと願っています。



田島医院からの 地域医療連携レポート



一つの診療所だけでなく、 地域全体で患者さんを 支えていくことが重要です。

医療法人 田島医院の

概要 昭和16年開院。平成5年、阪大病院で甲状腺、糖尿病などの内分泌疾患について臨床と研究をされていた現院長が、二代目として継承。院長は院内での診療の傍ら、東住吉区医師会副会長、大阪府医師会高齢者対策委員会委員、大阪市介護認定審査会委員など、多様な立場で地域医療に貢献している。●診療科：内科／小児科 ●住所：東住吉区西今川1-6-16 ●TEL:06-6719-5502

院長先生のメッセージ

医師同士の「信頼」が 病診連携のキーワードです。

当院では地域のかかりつけ医として、乳幼児からご高齢者まで幅広い患者さんの健康管理に携わっています。小児医療では小学校校医、幼稚園・保育園園医として定期健診なども行っています。一方、ご高齢者に対しては訪問診療を積極的に行い、寝たきりの患者さんとそのご家族を支えています。

とくに在宅医療では緊急時の病診連携が必要不可欠であり、一つの診療所だけでなく、地域全体として患者さんを支えていく必要性を実感しています。そのとき、診診連携・病診連携のキーワードとなるのは、医師同士の「信頼」ではないでしょうか。そして、信頼関係を結ぶには、互いの情報交換が前提となります。私の場合、医師会の活動を通じ、多くの先生方と話す機会に恵まれています。さらに勉強会や講演会にもできるだけ参加するよう努めています。その情報がベースにあるので、患者さんを病院へ紹介する場合も、疾患に応じて信頼できる先生へお願いすることができます。こうした医師と医師のつながりが連携の深さになり、ひいては地域医療のレベルアップにつながるのだと考えています。



田島医院 院長 田島 幸兒 先生

紹介 事例

胆石・胆のう炎と大腸ガンの手術

長 年にわたり
通院されている
60代女性が…

この患者さんは、父の代から長年にわたって診ている方です。ふだんは糖尿病、高血圧、甲状腺機能低下症の治療で、2週間に1回程度、通っておられます。この方に初めて大きな病院へ紹介したのは、平成8年のことです。急性心筋梗塞を発症し、心臓病治療で信頼できる大阪市内の病院をご紹介し、入院治療を受けていただきました。その後は大きな異変もなく順調に推移しましたが、平成16年11月、発熱と腹痛を訴えられ、来院されました。血液検査で胆道系の酵素が上昇していたため、胆石・胆のう炎を疑い、東住吉森本病院へ紹介しました。

平 成16年11月、
東住吉森本病院にて
胆のう摘出術

病院で検査の結果、見立て通り胆石・胆のう炎と診断され、開腹により胆のう摘出術を受けられました。術後は順調に回復し、再び、当院で持病の治療に取り組んでいました。ところが、昨年暮れも押し迫った12月28日、「便をしたところ、赤い血が出た」ということで、来院されました。

話を聞いたところ、「肛門部の痛みはない」ということです。これは、「痔ではなく、大腸ガンの疑いがある」と判断し、すぐ東住吉森本病院の消化器病センター宛てに紹介状を書いて、その足で病院へ行ってもらうことにしました。

平 成18年1月、
東住吉森本病院にて
大腸ガンの手術

病院にて内視鏡検査を受けたところ、やはり大腸ガンという診断。今年1月31日に低位前方切除術を受け、2月14日に退院されました。この方の場合、糖尿病に加え、急性心筋梗塞の既往があり、手術には慎重な配慮が必要です。その点、東住吉森本病院にはしっかりした循環器科もあり、信頼してお任せできます。患者さんの話でも「安心して治療を受けられた」ということでした。現在この方は、当院のほか、大阪市内の病院（心臓病のチェック）と東住吉森本病院（抗ガン剤治療）へ定期的に通っておられます。このように「ふだんは当院を利用し、数カ月に1度病院へ通う」患者さんのケースが増えています。それだけ病診連携が進み、病院と診療所の役割分担がはっきりしてきたように感じています。

医療環境の充実—— 東住吉森本病院の取り組み

当院では救急搬送の増加に対応し、今年4月よりICUの病床を6床から8床に拡充。さらに8月1日、ICU専任の部長として西田幸生が着任し、重症疾患に対する治療体制をいっそう充実させました。こうした集中治療室の取り組みや今後の目標について、西田幸生からお話します。

※当院のICUは公的に認められた特定集中治療施設です。

ICUを8床に増床し、重症疾患の治療にあたっています。



ICU部長
西田 幸生

●プロフィール／福島県立医科大学出身。日本心血管インターベンション学会、日本内科学会、日本循環器学会所属。日本心血管インターベンション学会認定医。

重篤な患者さんを収容し
集中的に治療・看護を
行っています。

集中治療室の理念は、「内科系・外科系を問わず、重篤な患者さんを収容し、強力かつ集中的に治療・看護を行うことにより、効果的に病気を治療すること」にあります。重篤な患者さんを一つの病棟に収容し、専門的チームによる集中的な医療の恩恵を受けられるよう、患者さんの安全性を追求したものです。

具体的には、以下のような状態の患者さんが対象となります。急性心筋梗塞、肺塞栓症、心筋炎などの急性循環不全や気管支喘息重積発作、重症肺炎などの急性呼吸不全などの患者さんです。また、敗血症性ショック、多臓器不全などの重篤な患者さんのほか、各種外科の大手術後の患者さんも対象になります。



近隣の病医院の先生方
から信頼される
集中治療部をめざして。

当院では平成14年6月に特定集中治療室を開設し、平成16年10月に新病院移転、平成18年4月に集中治療室を8床に増床し、現在に至っております。その間、設備面の強化を行い、人工呼吸器、大動脈内バルーンポンピング、経皮的心肺補助システム、持続血液濾過透析装置、血液浄化装置などをそろえております。スタッフは専従医2名、看護師19名です。

私は8月1日に着任しました。大学卒業後、麻酔科集中治療部を経て、主として循環器内科にて診療に従事してまいりました。この経験をもとに、各診療科と連携してより良い医療を提供できるよう努力するつもりです。さらに地域医療支援病院の集中治療部として、近隣の病医院の先生方から信頼され、愛される集中治療部に育てていきたいと思っております。



EPAは、健康にいいと言われるオメガ3系の多価不飽和脂肪酸の一つ。中性脂肪を減らし、動脈硬化の進行防止に役立つとされています。

このEPAが多く含まれているのが、イワシなどの青魚です。日本人は元来、魚を好んで食べてきましたが、食生活の欧米化にともない、魚の摂取量が減ってきています。生活習慣病が気になる方は、とくに青魚を使った料理を積極的に食べることをおすすめします。料理法のコツは、刺し身やホイル焼きなどで脂を落とさないように工夫すること。また、体内での酸化を防ぐために、緑黄色野菜などと一緒に食べるといいでしょう。

■EPAの主な生理作用

- 中性脂肪を低下させる
- LDL (悪玉) コレステロールを低下させる
- 血液を固まりにくくして血流を良くする
- 血管の弾力を保つ

■当院で採用している、医療用のEPA

薬剤名	主な使用目的
エバデルS900	閉塞性動脈硬化症にともなう潰瘍、疼痛及び冷感の改善／高脂血症の治療

■EPAが多く含まれる魚とEPA含有量 (可食部100gあたり)

真鯛 (マイワシ) 丸干し	2,260mg
養殖はまち 生	1,545mg
身欠鯨 (ミガキニシン)	1,317mg
本鯖 (ホンマグロ) 生、脂身	1,288mg
真鯛 (マダイ) 養殖、生	1,085mg
目刺 (メザシ) 生	1,063mg
鯨 (ニシン) 生	989mg
鰯 (ブリ) 天然、生	899mg
鰻 (ウナギ) 生	742mg
柳葉魚 (シシャモ) 輸入生干し	720mg

※1食の魚料理は、70～80gぐらいが適当です。

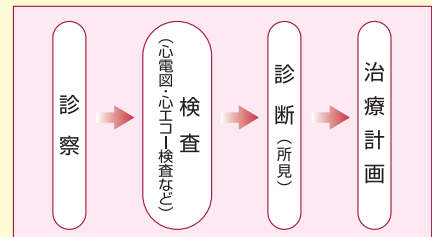
I N F O R M A T I O N

「循環器科」外来診察室がリニューアル。 同じ場所で診察から検査まで行います。

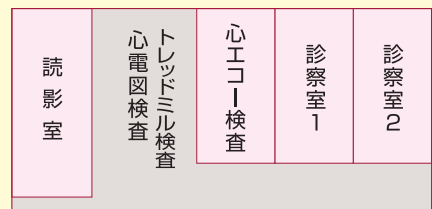
9月1日より循環器科の外来診察室が広いスペースに移動し、リニューアルしました。新しいスペースでは、診察室・検査室・読影室が1カ所にまとまり、同じ場所で<診察→検査→診断>を行うことができます。これによって、患者さんに離れた検査室に移動してもらうことなく、速やかに受診していただけるようになりました。

ここで行う検査は、心電図、心・血管エコー、ABI・PWV、トレッドミル検査です。これらの画像データは読影室のコンピュータに送信され、医師が所見をつけるとともに、必要に応じて複数の医師で病状を検討します。さらに詳しい検査が必要な場合は、冠動脈CT検査なども加えて、正しく診断した上で治療計画を立てます。

■「循環器科」外来診察の流れ



■「循環器科」外来診察室



A 通り

地域医療連絡室だより

地域の診療所や病院の先生方から、地域医療連絡室経由でご紹介いただいた、入院・外来・検査の件数です。今後も、皆さまとの連携をますます深めていきたいと考えています。

	平成18年 3月	平成18年 4月	平成18年 5月	平成18年 6月	平成18年 7月	平成18年 8月
外来	480	455	532	549	480	448
入院	226	175	132	199	163	176
検査	570	495	515	570	522	448
CT	145	132	161	147	138	122
MRI	235	192	192	246	207	172
エコー	28	22	27	36	12	18
胃カメラ	102	98	83	79	111	81
注腸	14	10	10	12	8	5
大腸ファイバー	35	22	30	36	33	37
その他	11	19	12	14	13	13
合計	1276	1125	1179	1318	1165	1072

もりもとだより

入院中、ゆったり過ごせる個室をご用意しています。

当院では入院病室として、多床室のほか、プライバシーが確保できる個室も数多くご用意しています。個室では、バス・トイレ、冷蔵庫といった生活設備をひとつおり完備。入浴時間なども患者さん自身が決められますから、ふだんの生活のペースで、ゆったりと療養していただけます。

個室（特別室Bタイプ）の主な設備

- 電動ベッド
- 床頭台
- セイフティボックス
- 応接セット
- ユニットバス（風呂・洗面台・シャワー・トイレ）
- 冷蔵庫
- テレビ（有料）
- 電話（有料）

室料／1日 10,500円（税込）

※このほか、より充実した設備をそろえた特別室Aタイプもあります。



医療法人 橘会
東住吉森本病院

〒546-0014
大阪市東住吉区鷹合3丁目2番66号
06-6606-0010（代）
<http://www.age.ne.jp/x/thm-hp/>

交通アクセス

- 電車・バスで
 - ・JR阪和線・地下鉄御堂筋線「長居駅」より市バスで「長居公園南口」下車すぐ
 - ・近鉄南大阪線「針中野駅」又は「矢田駅」より徒歩12分
- 車で
 - ・長居公園通りの長居公園東交差点を北へすぐ